

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 28

下野尻「根柢神社と車峠」

文：生江 克志さん

下野尻にある根柢神社は、古くは大天神社と称され、もともとは現在ある社殿の後ろの小高い山頂にありました。永仁2年(1294)8月11日に社殿が造営され、以来、下野尻宿の氏神様として崇拜されてきました。明治元年(1868)に根柢神社と改名され、今でも風化した石段と社跡が残されています。神社の名称の由来については、次のような伝説があります。



根柢神社

越後街道・車峠は、慶長16年(1611)の会津大地震で被災した鶴ヶ城の改修用資材を運搬するため開かれましたが、険峻な悪所を開削するにあたり、ある夜夢に根裂神が現れ、「汝ら何と之ばかりの工事を躊躇する。我々らのための開削する方向を指導すべし」と告げ給いて峻坂をよじ登っていきました。村人はその霊夢に感じ、大いに奮励努力し、遂に車峠の峻坂を開削することができました。それ以来、根裂神を祀り、当村の鎮守となりました。



大正元年(1912)12月15日には現在の地に御宮が作られ、諸々の神が合祀されました。祭神には根裂神、大山祇神等が祀られ、大正10年(1921)、村社となりました。宝蔵倉に安置されている荘厳なる御神輿は街道の華やかし頃の隆盛を極めた下野尻の面影を残しています。



車峠の茶屋

寛政元年(1789)、車峠には2軒の茶屋が作られ、参勤交代の大名や多くの旅人が利用し、繁盛したそうです。明治11年(1878)には、イギリス人女性探検家イザベラ・バードが宿泊し、車峠から眺めた会津の山々の雪景色の素晴らしさを『日本奥地紀行』で紹介しました。大正3年(1914)、現在の磐越西線の全線開通により峠を利用する人が減少し、車峠の茶屋は廃屋への一途をたどり、今では見る影もないのが残念です。

今月の表紙

今月の表紙は、7月17日に行われたこゆりこども園のプール開きから。

暑い日が続く、この日を心待ちにしていた園児たちは、水しぶきに歓声を上げ、はじけるような笑顔で水遊びを楽しんでいました。(7ページに関連記事)



お知らせ

昨年12月から運用を開始した西会津町の公式フェイスブック「なじよな町、西会津。」と、公式ホームページのQRコードを掲載します。

皆さん、この機会にぜひご覧ください。

